

西暦 2024 年 2 月 14 日

重度精神疾患標準的治療法確立事業のデータの利活用に関する研究事業 研究経過／終了報告書／成果報告書

重度精神疾患標準的治療法確立事業のデータの利活用に関する研究事業
研究利活用委員会 委員長殿

所属医療機関 国立精神・神経医療研究センター病院

申請者 平林 直次

重度精神疾患標準的治療法確立事業（医療観察法データベース事業）において収集されたデータを用いて行う研究について、

継続中につき、経過を報告します。

終了したので、結果を報告します（終了後の成果報告の予定 あり なし）。

終了後に成果を公表したので、報告します。

申請 番号	MTSA-002	研究 課題名	重大な他害行為の予防体制の構築に向けた基礎的研究 —入院データベースを用いた司法関与の経過の理解—
研究結果（経過）： 2017年7月～2018年12月のある時点で入院処遇中であり、2020年3月までに抗告または死亡以外の事由で退院した対象者633名の「入院時年齢」「診断」「対象行為」「退院時転帰」「隔離・拘束」「触法歴」などの項目を使用した。入院の長期化を予測する機械学習の重回帰モデルは、単独の予測変数に加えて予測変数間の交互作用を組み込み、反復変数除去法により作成した。分析、および学会等報告は終了しているため、本研究を終了後、次年度に論文を作成する予定である。			
上記公開に際しての希望： <input checked="" type="checkbox"/> すぐに公開してよい。 <input type="checkbox"/> 年 月以降に公開してよい。 <input type="checkbox"/> その他（ ）			
研究利活用委員会に未報告の研究成果公表実績（学会発表、論文など）： 1) 小池純子，曾雌崇弘，河野稔明，竹田康二，藤井千代，平林直次．医療観察法対象者の入院期間に影響する因子について—医療観察法データベースと機械学習を用いた分析．第18回日本司法精神医学会大会，WEB開催，2022.7.9-10. 2) 小池純子，河野稔明，岡野茉莉子，ほか：医療観察法対象者の入院期間異影響する因子について．精神科43(1)，100-108，2023			

※事務局記入欄

初回申請

2020年10月30日

初回承認

2021年1月19日